



古地図を広げて地形などについて話し合う研究会のメンバー

町田地方史研究会

地名の意味 後世へ継ぐ

「台、谷、畑などのように土地の形状にちなんだ地名は少なくありません。『くぼ』は崖のある地名に多く、崖崩れのあった土地には『かけ』『びやく』などの地名が見られます。山間の入り口は『おおと』、『みつ』は川の水が満ちる意を表すこともある」

そう話すのは、町田地方史研究会の小島政孝会長。起伏に富む多摩丘陵に位置する町田だからこそ、地形に由来する地名は少なくない。

一方、地元の歴史や伝承についての情報を伝えてくれるのも地名の魅力だ。「小野路の奈良杯(ならばい)の地名は、南北朝時代の武将、新田義貞がこの地で『ならべ』と号令したからという言い伝えがあります」と話す。

郷土を知る上で必要な地名の由来を伝えようと、同研究会は2019年から、「まちだ〇ごと大作戦」の決定を受けて調査を開始。身近にある地名の由来を歴史散歩や講演会を通じて地域住民に紹介し、活動の輪を広げながら呼びかけてきた。

しかし、手がかりはあまりにも少なく、検地のために小字が記されている江戸時代の水帳や、当時の名主が所有していた村絵図など、今も残る数少ない資料を探し歩き、地道に調べ続けてきた。「資料がなく由来の断定ができない地名も多いですが、いろんな見方があるという投げかけがあれば、多くの人が参加し、研究は後世に受け継が



町田中央図書館で定例の会議が開かれている

れるはず」と話す。

1972年設立の同研究会は現在、約80人の会員が活動に参加している。郷土の歴史をテーマごとに掘り下げた会誌『町田地方史研究』を現在までに26号発行、古代から昭和まで活躍した地元ゆかりの456人を紹介する『町田歴史人物事典』も一冊にまとめている。

今年、まちだ〇ごと大作戦「未来へ伝承！町田の地名大作戦」で調べてきた地名の由来を記録する『町田の地名南地区編』を発行する予定。旧・町田町、忠生村、堺村、鶴川村の各地区編の発行も今後、視野に入れている。

小島会長は「今は丁目番地の数字の表記が多くなり、地名に面白みがなくなった。交差点やバス停にある名称が地名であったことを知り、地域に愛着を持つてもらえるような歴史財産を後世に残したい」と話している。



町田10地区

地名からまちの魅力を再発見

通学路の信号機に表示されている交差点、近所のバス停、いつも遊んでいる公園。普段見慣れた場所の名前には、昔から伝わる由来があることが少なくありません。

今回の「まちびと」特別号は、まちだ〇ごと大作戦「未来へ伝承！町田の地名大作戦」で実施している「町田地方史研究会」の取り組みを特集します。同研究会は、地域の中の小字(古い地名)を調べ、身近な地名の由来を知ることによって郷土愛を育んでもらいたいと、町内会・自治会連合会の10地区に働きかけ、これまでに相原、小野路、三輪の各地域で講演会や歴史散歩などを行ってきました。

本号は、「町田の地名大作戦」の成果から市内10地区に潜む地名を探ります。地名の由来には諸説ありますが、それを楽しみながらご覧ください。



2018年の市制60周年から、ラグビーワールドカップ2019、東京2020オリンピックへと続く3か年を「未来を見据えた3年」と位置付けて開始した「あなたの夢を実現につなげる」取り組みです。新型コロナウイルスの影響を受け、実施期間を2021年末まで1年間延長しました。

まちびと

MACHIBITO

2021年 特別号

発行日 2021年3月15日

発行 町田市市民部市民協働推進課
〒194-8520 東京都町田市森野2-2-22
町田市役所2階
TEL 042-724-4362

編集部 株式会社タウンニュース社
〒225-0014 神奈川県横浜市青葉区荏田西2-1-3
TEL 045-913-1220

表紙撮影 工藤 剛史

- 03 町田地方史研究会
地名の意味 後世へ継ぐ
- 04 相原地区
- 05 小山・小山ヶ丘地区
- 06 木曾地区
- 07 高ヶ坂・成瀬地区
- 08 忠生地区
- 09 玉川学園・南大谷地区
- 10 鶴川地区
- 12 原町田地区
- 13 町田第二地区
- 14 南地区
- 15 町田かるたプロジェクト
郷土の魅力 口ずさもう
- 16 町田市地区協議会



この冊子は40,000部発行し、1部あたりの単価は57円です(職員の人件費を含む)